

財団法人 大阪科学振興協会

平成 23 年度事業報告及び決算の承認について

当協会は、平成 18 年度から継続して、3 次にわたり、大阪市立科学館の指定管理者として大阪市から指定されている。平成 23 年度は、指名を受けた 4 年間（平成 22～25 年度）の 2 年目である。

平成 23 年度は、入館者数が 752,648 人と、はやぶさ人気で過去最高となった平成 22 年度を 120 人上回った。観覧料収入も 2 億円を超え、予算を 1 割上回った。

内訳は表 1、表 2 に示すとおりで、展示場入場者は 40 万人に迫り過去最高となった。プラネタリウムホール入場者は前年度をわずかに下回ったが、はやぶさ人気のような外部要因がなかったことを考えると好調であった。

この良好な実績は経営計画で重点を置いた「日々の職員等の基礎活動」が実を結びつつある証だといえる。たとえば、展示場等で実施した世界化学年の関連イベント 23 件のうち 11 件が他組織との連携事業であったが、大学等の研究機関や民間企業等の協力を得ることができたのは職員の基礎活動が高い評価を得ているからである。また、12 月に完了した全天周映像システムのリニューアルは職員が長年培ってきた設備の運転管理等のノウハウの結晶であり、同じく、質の高い番組を制作できる能力と相まって、12～2 月のプラネタリウム番組「オーロラの世界」が閑散期にもかかわらず席席占有率 70%を超える大ヒットとなったのである。さらに、職員が指導・育成してきた外部スタッフは出張サイエンスショーなど館内外の実験ショーで活躍するにいたっている。

こうした結果、経営計画で掲げた 3 つの平成 23 年度目標を全て達成することができた（表 3）。

なお、平成 23 年度には、公益財団法人への移行手続きを計画どおり進め、大阪府より平成 24 年 3 月に移行認定書の交付を受け、平成 24 年 4 月 1 日付けで公益財団法人大阪科学振興協会となった。

表 1 平成 23 年度入場者数

	実績	予算	対予算比	対前年比
展示場	391,041	351,400	111.3	103.3
プラネタリウムホール	361,607	346,800	104.3	95.2
合計	752,648	698,200	107.8	100.0

表 2 平成 23 年度観覧料収入（千円）

	実績	予算	対予算比	対前年比
展示場	55,188	43,266	127.6	107.4
プラネタリウムホール	145,184	135,278	107.3	95.6
合計	200,372	178,544	112.2	98.6

表 3 経営計画の目標と実績（平成 23 年度）

	総収入に占める自主事業等の割合の増大	連携型事業の推進	大阪市内小学校による科学館活用機会の増加
目標	60%	年平均 20 件以上	242 件
実績	62.4%	39 件	253 件

平成23年度 事業報告書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

I. 公益目的事業

1. 展示場事業

(1) 常設展示の公開・管理

メインテーマ「宇宙とエネルギー」にしたがい、193点の展示品を主に1～4階の常設展示場で公開した。入場者増加に伴うハンズオン展示の故障増大という科学館特有の問題と経年劣化に対応するため日常のメンテナンスに努めるとともに、資料の追加や交換を適宜行った。そして、新展示として学芸員考案のもの2点と寄託による風レンズ風車を導入し、老朽化の著しい展示1点を廃棄した。また、小学校団体の展示利用を支援するため、学習プログラムを制作・配布した。

(2) 企画展示

世界化学年関連の企画展「大阪化学の過去・いま・未来」を在阪6化学企業・団体から資料提供いただき3期9カ月間開催した他、「花火の化学展」「万華鏡展」「新コレクション展」を開催した。

(3) 展示解説ボランティアによる展示案内

展示場にて、案内や展示品解説、実験演示等を行なった。登録者数：50名、活動延人数：1,269人、指導員：4名

(4) サイエンスショーの実施

学芸員を中心に1日4回を原則に1回30分の実験ショーを3ヶ月毎にテーマを変えて行った。実施回数：1,039回、見学者数：78,466人

(5) エキストラ実験ショーの実施

サイエンスショーとは異なる実験ショーをボランティアが演じた。実施回数：331回、見学者数：16,219人

2. プラネタリウムホール事業

1日2番組合計7回のプラネタリウム一般投影を基本に行った。この2番組のうちの一つは3ヶ月毎にテーマが変わる学芸員等によるライブで（一般投影A）、もう一つは全天周映像を組み込んだ番組である（一般投影B）。前者の「オーロラの世界」はリニューアルした全天周映像システムが映し出す鮮明なもので、閑散期にも関わらず、座席占有率が70%を超える大ヒットとなった。後者の「さがせ！第2の地球」は学芸員が海外作品を翻訳したもので、他館への配給も目指すものである。

(1) 一般投影A

「今夜の星空」の解説に加え、学芸員等による生解説を基本スタイルとして投影を行った。投影回数：1,135回 見学者数：204,227人

(2) 一般投影B

全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による生解説を加えて投影を行った。投影回数：626回、見学者数：91,551人

(3) 全天周映像

CG デジタル動画作品「HAYABUSA－BACK TO THE EARTH－」を上映した。上映回数：128回 見学者数：30,590人

(4) 学習投影

学校団体専用に学校教育用に投影を行った。見学校：257校、投影回数：100回、見学者数：20,745人

(5) 幼児投影

学芸員による手動投影で、それぞれの季節に見える星空や、星座や天体の話題を紹介した。投影回数：63回、見学者数：11,823人

(6) キッズタイム（試行）

6～7月に幼児連れの家族向け投影を施行した。投影回数：13回、見学者数：2,671人

(7) スペシャルナイト

天文学の普及と市民の生涯学習に資することを目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を実施した。実施回数：3回、見学者数：691人。

3. 資料の収集及び保管、調査研究事業

(1) 資料の収集・保管

超伝導ケーブルを住友電工（株）から寄贈を受ける等、寄贈・寄託資料 47 点、購入・製作資料 21 点、借用資料 11 点を収集した。また湯川秀樹直筆原稿など 11 点の資料の貸出を行った。

(2) 調査研究

(ア) 中之島科学研究所

学芸員と外部研究員 5 名が情報交換を行い、研究活動を推進した。実績は下のとおり。

- ・学術誌等での論文掲載 18 件、学会等での口頭発表 22 件
- ・第 2 回理工系学芸員展示研究会を開催し、他館の学芸員と意見交換を行った。
- ・毎月 1 回のコロキウムにおいて、研究員が市民公開の場で研究報告を行った。

(イ) 外部資金獲得

科学研究費補助金奨励研究など 2 件 68 万円

(ウ) 第 4 次展示改装調査事業

他館等の視察を 10 件、展示試作 2 件などを実施した。

4. 教育普及啓発事業

(1) 科学教室、講演会、教員研修など

日本物理教育学会近畿支部などとの共催による「サイエンスフェスタ」が 2 日間で 25,000 人を集めた他、65 件（内他組織の協力等を得たもの 35 件）の各種事業を実施した。参加者は自由参加を除いて 5,412 人であった。

(2) 科学デモンストレーター研修

実験ショーの人材養成を目的に、1年間の研修を行った。研修生：6名 修了者：5名

(3) 天体観望会

市民対象の天体観望会を、ボランティアの天体観測指導員の協力のもとに実施した。

実施回数：8回 参加者数：765人

(4) ジュニア科学クラブ

小学校5, 6年生が毎月1回科学館に集合し、プラネタリウム見学や実験教室等で過ごした。会員数：166人

(5) アウトリーチ事業

近鉄百貨店の協力で開催した「あべの科学博」が8日間で13,593人を集めた他、モバイルプラネタリウム、出張サイエンスショー、講演会など合計64件（自由参加を除く参加者数8,922人）を実施した。

5. 建物・設備等に関する管理運営事業

科学館の土地、建物、設備等の維持・管理及び運営を適正に行った。

当協会の専門性の高い技術職員が、法定点検など各種設備点検を確実に行うとともに、設備故障を未然に防ぐ観点から、日々、工夫を凝らして巡回を行うなど、建物や設備の安全確保のための活動を展開した。

また、照明設備のLED化等節電に積極的に取り組み、電気使用量及び電気料金が、22年度比で約13%の減となった。

6. 情報発信及び広報・宣伝事業

科学館ならびに科学と科学技術の普及啓発のため、ホームページの充実等多彩な手法による情報発信を行うことで広報・宣伝に努めた。

II. 収益事業

1. 売店事業

科学館への来館者に、当協会の学芸員が作成したミニブックをはじめ、科学書籍、科学雑誌、こよみハンドブックやオリジナルグッズ等の商品の販売を行った。また、科学館西側屋外テント内に、自動販売機を設置し、清涼飲料水等の販売を行った。

2. 駐車場事業

科学館への来館者のために、以下の収容台数等で駐車場事業を行った。

- ・科学館北側一般駐車場 面積7,803平方メートル 収容台数300台
- ・科学館西側バス駐車場 面積 809平方メートル 収容台数 22台